令和６年度小松市立国府学校　学校評価２

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・８月提出）	取組の成果と課題（年度末・３月提出）
集団づくり	＜主体的・対話的な集団づくり＞ ・国府のつどいや学級会を定例に行うことで学校や学年・学級の課題について活発に話し合う場を設定する。 ・生徒会執行部や学年委員会等を活用し、各目標達成に向けた取り組みを自分たちで考え、実行する機会を増やす。 ・週に一度KOKUFUトークを実施し、相手意識を持って考えを伝え合うことで共感的な人間関係を高める。 ・様々なボランティア活動を通して、自発的な姿勢を育成する。 【客観的評価（アンケートより）】 ①より良い姿（目標）を求めて粘り強く取り組んでいる。 ②学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。 ③話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えを伝える。 上記①～③について、90%以上の肯定的な回答を目指す。	各学年を中心に、月に一度程度学級会を行い、行事に向けた取り組みや各学級の成果と課題について話し合った。ここ数年の継続した取り組みから、話し合い活動は大変スムーズに実施できている。また学年によっては子どもたちからの発案でより良い姿に向けた取り組みを行うことができた。今後も継続させていきたい。 KOKUFUトークについては１学期は「アドジャン」を行った。やや面白さに欠けることもあったが、友達の考えを最後まで聞き、受け止める姿勢を大切に活動していた。7月には縦割りでKOKUFUトークを行い、学年を越えた話し合い活動を通して、今後のKOKUFUトークのあり方についてざっくばらんに意見交流をすることができた。２学期以降は子どもたちの意見を反映させた取り組みを実施したい。 【7月生徒アンケート(左記)より：②95%　③95%】 その一方で、学校全体としてより良い姿や目標に対して粘り強く取り組む姿勢に課題が見られる。相手を傷つけたり、「これぐらいなら大丈夫だろう」と安易に捉えて行動したりする生徒が多い。自分や集団の理想像に迫る姿勢を育成する必要があるように感じる。２学期はこの点について子どもたちに考えさせる場を設定し、教員も毅然とした態度で対応できるよう心がける。 【7月生徒アンケート(左記)より：①87%】	学級会は学年ごとに定期的に実施し、各学級や学年の課題について考えを深めることができた。本校の生徒の良さが発揮される取り組みとなった。学年によっては議題に対する司会・進行を生徒が自ら考え、取り組む様子も見られた。 KOKUFUトークでは、２学期は「コロコロTalking」、３学期は「トーロンバトル」を実施した。いずれもゲーム性を取り入れた活動であったため、KOKUFUトークの約束を意識しながらも楽しんで取り組んでいた。年間を通した取り組みということもあって習慣化し、共感的な人間関係を高める機会となっている。 【12月生徒アンケート(左記)より：②97%　③98%】 アンケート結果から目標達成に至らなかったのは「より良い姿を求めて粘り強く取り組んでいる。」である。やや改善は見られたが、中間報告でも記述した通り、「これぐらい大丈夫だろう」と安易に考えて行動する生徒が見られる。またボランティア活動については、主に２年生で実施し、朝の挨拶運動や落ち葉拾いに自発的に取り組んだが、今後は学校全体にもその雰囲気が広がってほしいと思う。 【12月生徒アンケート(左記)より：①88%】
いじめ防止	＜いじめの未然防止、早期発見に向けて＞ ・生徒指導部会や教育相談部会を中心に、日頃より生徒の変化を把握し、定期的な情報交換により迅速・適切な対応を全職員の共通認識のもとに取り組む。 ・各種アンケートや定期面談、生活設計ノートなどの行動観察を学校全体で実施し、いじめの未然防止・早期発見に努める。 ・エンジェル週間の取り組みやKOKUFUトークなどを通して、日頃から温かい雰囲気づくりを心がける。 ・生徒が楽しいと思えるように、学年や全校でレクレーションを実施する。 【客観的評価（アンケートより）】 ①自分には良いところがあると思う。 ②友達は自分の良いところを認めてくれる。 ③学校生活は楽しいと思う。 ④学校に安心して来ることができる。 ⑤自分には悩みや心配事があるとき、相談できる人がいる。 上記①について、80%以上、②～⑤について、90%以上の肯定的な回答を目指す。	各部会において密に情報交換を行い、全職員が共通認識をもって取り組むことができた。いじめの未然防止に向けて普段の行動観察や声かけだけでなく、ふれあいアンケートやQ-Uアンケートを実施して全員と面談を行うなど、生徒に寄り添った対応ができている。また本校の取り組みとしてエンジェル週間やＫＯＫＵＦＵトークを行い、温かい雰囲気のある居場所づくりができた。生徒アンケート項目（左記）では、全ての項目において目標数値を超え、効果的に取り組めているように感じている。今後も内容の見直しを踏まえて継続して実践する。 また最近はいじめだけでなく、生徒の抱える問題が多岐にわたる傾向にある。どの問題に対しても同じ対応が必要とされるため、決していじめ防止に限らず、異なる事案にもつながるということを職員全体で確認し、ＳＯＳに気づく力を養っていく。校内研修会や職員会議等を通して、職員と情報共有を徹底する。	１年を通して継続かつ充実した取り組みができた。全職員が共通理解のもとで生徒と接することができるよう、各部会や学年会を通して情報交換を密に行ってきた。また生徒指導部会の中で生徒の頑張りを共有する場を設定し、積極的に声かけを行う工夫も取り入れた。エンジェル週間やKOKUFUトークを通して、生徒は居場所を感じながら参加できていたように思う。２学期生徒アンケート項目（左記）では、すべての項目において目標数値を達成した。今後も全職員が高いアンテナを持って生徒を観察できるよう、共通理解を徹底し、配慮を必要とする生徒を見逃さない雰囲気を大切にしていく。 また全校で、または学年ごとでレクレーション活動を取り入れるようになった。以前、「魅力のある学校とはどのような学校か。」というテーマで話し合いを行い、その答えとして生徒から出た案である。学校全体でレクレーション活動を行うことで、直接的ではないが、いじめを含めたあらゆる問題行動の未然防止に向けた取り組みとなっている。今後も継続したい。
道徳教育	＜考え、議論する道徳授業の実践、積み上げ＞ ・授業研究や校内研修を通して、全職員で道徳授業の力量を上げ、「考え、議論する道徳」の推進を図る。 ・生徒が授業における自己の変容を実感できるような評価についての研究を進め、実践する。 【客観的評価（アンケートより）】 ①学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。 ②道徳の授業や行事などを通して、人間関係づくりや正しい生き方などについて考えるようになった。 上記①、②において、90%以上の肯定的回答を目指す。	・今年度は全学年で学年ローテーション道徳を行っている。授業だけでなく、評価においても学年全体で取り組むことで一人一人が実践力をつけている。 ・生徒アンケートでは、肯定的回答が「①学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。」では95%、「②道徳の授業や行事などを通して、人間関係づくりや正しい生き方などについて考えるようになった。」では91%とどちらも目標を達成できている。特に①では、学年ごとに見ても全学年において肯定的回答が90%を超えている。道徳に限らず、学校の教育活動全体で友達と話し合う活動を取り入れることで生徒同士が自分の考えを話し、相手の話をしっかりと聞くことが当たり前にできているからこそ考えを深めたり広げたりできると考えられる。 ・今後も全職員で道徳授業を実践していくことで職員の力量をあげながら、生徒が自己の生き方について考えていけるような授業づくりを協力して進めていきたい。	・ローテーション道徳では、学年全体で道徳の授業を進めることができた。複数の教員で行うことで、多様なアプローチで授業を行うことができた。また、同じ授業を複数のクラスで行うことで授業内容のブラッシュアップを行うことができた。３学期には当該学年に所属しない教員も授業を行うなど、新たな取り組みも行った。 ・12月の生徒アンケートでは、肯定的回答が「①学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。」が97%、「②道徳の授業や行事などを通して、人間関係づくりや正しい生き方などについて考えるようになった。」では94%とどちらも前回を上回った。学校の教育活動全体で話し合う活動を継続していることや全校活動の実施を通して抵抗なく自分の考えや思いを伝えることができていると考えられる。 ・評価についても、生徒の変容をどのように評価できるかについて、学年の教員同士で考えることができた。一方で、全教職員で研修を行ったり、検討を行うことについては不十分だった。必ずしも研修が必要なわけではないが、来年度は授業に活かすという視点で研教員同士の研究が進むと良いと考えている。
キャリア教育	＜将来の生き方に希望を持ち、自ら学習に向かう生徒の育成＞ ・さまざまな場面で、社会が「働く人々」によって成り立っていることに気づき、自分もその一員となろうという意識を育てる。 ・「職業人に聞く」「職場体験」「進路選択」を活用して自分の特性を知るとともに、伸長のための努力しようとする。 ・成長の証を「キャリアパスポート」に記録する。 【客観的評価（アンケートより）】 ・学校生活を通して、将来のことについて学校生活で考える機会が増えた。 において、90%以上の肯定的回答を目指す。	・修学旅行・自主プラン、遠足など校外学習の機会を利用し、さまざまな仕事や働く人の存在について生徒たちに投げかけた。また小松市長の講和もあり、小松市の未来を考えるきっかけにつながった。 ただ、生徒アンケートでは「将来のことについて学校生活で考える機会が増えた」と答える生徒が（79%）であり、学年別に分けると3年生（95%）2年生（86%）1年生は（57%）であった。どの学年も同じような取り組みはしているものの、生徒の受けとり方に差があるように感じた。1年生が低いのは例年通りかもしれないが、キャリア教育の目的を理解せず、行事に参加しているだけなのかもしれない。 ・進路希望調査を実施し、自己をみつめ、将来を意識させる機会をつくった。 ・活動後にはふりかえりを行い、教室掲示やたよりで交流、適宜、キャリアパスポートに格納している。 ・昨年度まで行っていた自己理解の時間を今年度は行っていないため、自分の未来について考える時間が減っているのではないかと予想される。そこで、道徳教育や集団づくり部会と連携し、国府トークの中にキャリアに関する話題をとり入れるなどを行っていきたい。	・各学年、総合的な学習や学活、その他のさまざまな機会をとらえて、キャリア教育を推進していることは教員アンケートからも明確である。その方向性については、生徒アンケートからも見受けられ「将来の進路のことについて考える機会は増えた」という項目は1学期から比べると向上している。また「家族と話す機会」についても3年生を中心にアップしており、保護者への投げかけも奏功していると考えられる。 ・一方で「将来の夢や希望をもっている」との回答は、2年生の値が低い。今期は3年ぶりに復活した「職場体験」の影響もあって好転すると考えていたが、生徒の将来の夢にまでつながるような内容ではなかったと考えられる。ただ、「将来の進路について考える機会」にはつながっている取り組みであったとアンケートから推測することができる。 ・上記を踏まえ、今後は「夢」の実現にむけたさらなる意欲向上や具体化のため探究活動の導入が必要となる。また、コロナ禍以降、初めての職場体験や事業所訪問を行った。学年独自で新規の取組が増えている一方、内容の精査とカリキュラムの再編成の必要がある。
保健健康教育	＜心身の健康に関心を持ち、自己及び他者を大切にしようとする生徒の育成＞ ・生徒会各委員会による保健指導、食育指導、体育指導の実施。 ・保健体育科教諭と養護教諭が中心となり、各授業や各行事を通して、教科横断的に生徒の心身のよりよい発育、発達を図る。	・４月から健康観察がTeamsでの実施となり、タイムリーに生徒の身心の健康について把握し、対応できるようになっている。６月には学校歯科医を招き、１年生を対象に歯のみがき方について指導して頂いた。また７月には激励会後の時間を利用し、生徒保健委員会により「熱中症予防」について保健指導を行った。この他、学校だよりや保健だよりを通して熱中症について呼びかけを行うなど、心身の健康について学校全体で取り組んでいる。 ・７月の生徒アンケートでは「自分の健康状態に気を付け…」や「毎朝、朝食を…」の項目で９０％以上と概ね良好であった。一方、「…体力の向上を心がけている」では８１％との結果であった。まずは、体育科の授業を中心に体を動かすことの楽しさを伝えていきたい。	・生徒アンケートにある、健康意識や朝食、運動に関する項目については概ね良好である。一方、昨年度学校保健委員会で取り組んだインターネットの利用に関する項目では、値が８割を切っている。アンケート項目には無いものの、睡眠習慣の乱れの背景にインターネットの利用が関係しているしていることは事実であり、来年度への課題として取り組みを検討したいところである。 ・11月の学校保健会では心の健康をテーマに取り組んだ。また、そのテーマを深めるために保健便りや掲示で継続して啓発を行っている。取り組みの結果を数値では評価しずらいものの、今後も大切にしていきたいテーマの１つである。
生徒会指導	＜主体的に企画運営に取り組む生徒会指導＞ ・生徒会活動への関心を高めるために、魅力ある企画を行う。 ・生徒全員が目的意識と責任感を持って取り組み、やりがいや満足感を感じられる活動内容となるように掲示や「国府の集い」を行う。 【客観的評価（アンケートより）】 ①「学級会、kokuhuトーク、国府の集いの定例化など、主体的・対話的な活動の充実を図っている。」 ②「生徒会活動や委員会活動に参加し、充実感を得ることができた。」（生徒アンケート） ③国府中学校の目標である「気づき考え実行する」を大切にして活動している。 ①②について、90%以上の肯定的な回答を目指す。 ③について、95%以上の肯定的な回答を目指す。	・学級会、kokuhuトーク、国府の集い、運動会、激励会などの活動に目的意識と責任感を持たせ、生徒主体で取り組ませるよう促すことができた。生徒アンケート項目「学級会、kokuhuトーク、国府の集いの定例化など、主体的・対話的な活動の充実を図っている。」では９０％以上の回答であるが、「生徒会活動や委員会活動に参加し、充実感を得ることができた。」では１年生８４％、２年生８０％、３年生９０％で全校８５％だった。特に２年生が充実感を得られるように生徒会役員からの発信を増やしていきたい。「国府中学校の目標である「気づき考え実行する」を大切にして活動している。」では１年生９１％、２年生８６％、３年生９３％で全校９０％だった。全校生徒が今年の生徒会目標「発」（自発的など）を達成できるように、どの学年でも声掛けしていきたい。	・２学期では、生徒会役員発信の全校活動を２回行うことで、主体的・対話的な活動の充実を図ることができた。生徒アンケート項目「学級会、kokuhuトーク、国府の集いの定例化など、主体的・対話的な活動の充実を図っている。」では９０％以上、「生徒会活動や委員会活動に参加し、充実感を得ることができた。」では１年生１００％、２年生９２％、３年生９５％で全校９６％と９５％もこえていましたが、「国府中学校の目標である「気づき考え実行する」を大切にして活動している。」では１年生９３％、２年生９２％、３年生９５％で全校９３％で９５％を満たなかった。ただ、どれも１学期よりポイントが高くなっていたので、さらに全校生徒が今年の生徒会目標「発」（自発的など）を達成できるように、どの学年でも声掛けしていきたい。

学校関係者評価	・ＩＣＴを活用した授業や取組が増えてきているが、先生の授業力や子どもたちのＩＣＴを使うスキルは上達しているのか。親世代はＩＣＴの授業を受けていない。今後の授業形態がどんどん変化し、教え方も変わっていくので大変だとは思うが、頑張ってほしい。目標をもって、取り組んでいる様子がわかり、よくやっていると思う。 ・生徒を楽しませる授業をお願いしたい。授業が楽しいと思える瞬間があれば、学校へ行くのも楽しいと思えるだろう。できる生徒もいれば、できない生徒もいると思うが、全体を通して、みんなが楽しいと思える授業を今後もお願いしたい。 ・小学校からそのまま中学校へ進学し、他校の生徒が交わらないので、高校へいくと知らない世界へ出ていくことになり、外の世界へ出ていったときに、やっていけるのか心配になるが、どうか。小学校時代より成長している様子も見られるようになった。他校へ進学する生徒も見られるのか。 ・コロナ禍以降、子どもたちの中で孤立化している様子は見られるか。給食でも前を向いて食べている様子が見られ、かつてのようなグループでの食事をする様子も見られなくなってきた。子どもたち同士の繋がりや人間関係には変化が見られるか。 ・部活動は今後どうなっていくのか。地域移行が進んでいくのか。地域の方では土日の地域の行事に子どもたちが参加できない状況も見られる。 ・スマホをもっている生徒はどのくらいいるか。ＳＮＳについてやスマホの使い方について、どのようにしているのか。 ・家庭での教育が一番大切である。家庭での教育を学校に求めすぎてはいないか。